

平成30年度

資料1-1

事業報告書

報告日	平成30年 4月22日	担当者	鈴木弘子
-----	-------------	-----	------

事業名	英会話講座 「街中で役立つ英会話」				
事業計画カテゴリ	6. 公民館ふれあい事業				
目標・目的	東京オリンピックを控え、おもてなし英語が話題になっている。英会話上達のコツを学び、英会話に積極的にチャレンジしようとするきっかけづくりをする。。また、日本以外の国の文化にも興味を持ち異文化理解につなげる。				
日時	平成30年4月15日(日)・22日(日) 13時～15時				
場所・会場	香川公民館 集会室中				
講師・指導・協力者	内藤 真由美さん (May English代表)				
報償額	15,000円	支払い方法	<input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡)		
対象者	18歳以上で英語の基礎学力のある方	定員数	10名	実績人数	延べ21名
材料費	486円	材料費用途	テキスト代金 (収支報告裏面)		
概要	2人ずつペアになり簡単な会話を繰り返しおこない、間違えても一言発すること、瞬発力の大切さを学ぶ。知識だけでなく「体得」を目指していた。また、効果的なセルフトレーニングの方法等の提示がある。 テキストにNHKラジオ講座「ラジオ英会話」を使用する。				
成果	定員10名の予定だったのだが、11名まで受けた。 2日間、2時間ずつの講座だったが、講師の軽快な指導のもと、簡単な会話を通し発語することの大切さを学ぶ。英語の基礎が身につけている参加者も多く、活発な会話風景が見られた。また、質問も多く充実しているクラスだったと思う。				
自己評価	2日間だけでなく継続してほしいという希望する人が多かった。				
	Aa				
事業に係る課題・反省点	事業名が「街中英会話」として募集をしたのだが、実際は街中ですぐに使えるような内容ではなく、英語学習のポイントが中心になってしまった。参加者からは内容が違ったのではという指摘もあった。講師との打合せが足りなかったことを反省する。しかし、参加者全員が「満足」「ほぼ満足」という感想であった。 継続してほしいという声が多いので、継続事業の開催方法を考えてみたいと思う。				

その他

テキスト代金500円徴収したが、実際486円だったので14円は返金する。

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

平成 30 年度

資料1-2

事業報告書

報告日

平成30年4月25日

担当者

鈴木 弘子

事業名	かめさんのおうち 4月				
事業計画カテゴリ	1. 家庭教育支援関連事業				
目標・目的	<p>地域における子育て環境は、必ずしも十分だと言えない状況にある。こうした状況の中、地域の家庭教育学習の拠点として公民館の充実が期待されている。</p> <p>子育ての悩みや不安を一人で抱え込まないよう身近で気軽に利用できる支援の場をつくり、さらには地域との接点の場所として公民館が活用されることを目的として開催した。</p>				
日時	平成30年4月25日(水) 10時～13時				
場所・会場	講義室・保育室				
講師・指導・協力者	香川公民館保育ボランティア 川浪恵子・手代木淳子・佐々木恵子				
報償額	6,900円 (2,300円×3名)	支払い方法	<input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡)		
対象者	乳幼児を持つ親(保護者)とその子ども	定員数	40名	実績人数	子ども3名 保護者3名 (合計6名)
材料費		材料費用途	(収支報告裏面)		
概要	<p>1才2名・2才1名・保護者3名 計6名(天気:雨)</p> <p>新年度初日で参加人数がすくないのではないかと危ぶまれたところへ、大雨警報が発令される天候だったせいか、参加者は少なかった。</p> <p>公民館に用事がある来館した親子を誘うとしばらくの間遊んで行く。リピーターの女兒はどうしても行きたいと言っているから雨の中来たと言っていたが、母親もスタッフとおしゃべりを楽しんでいるようだった。</p> <p>香川駅前子育て支援センターより、利用者支援事業担当者の見学がある。</p>				
成果	<p>・香川公民館主催事業「かめさんのおうち」「こもれびひろば」のチラシを配布し情報提供をした。</p>				
自己評価	<p>参加人数は少なかったが皆、たくさん遊ぶことができた。かめさんのおうちを知らなかった母親は手伝ってみたいと言っていたのでボランティアに加わる事を誘ってみた。</p>				
Da					
事業に係る課題・反省点	<p>ボランティアをやりたいという参加者の声をすぐにキャッチして、共に子育てしていくという見方をすれば、子連れでもボランティアをやってもらえるのではないかと、ボランティアのメンバーからの意見をくみ、誘うことにした。視点を変えるという大切さに気付かされた。</p>				

その他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

- A : 定員以上の申し込み
- B : 定員の8割以上
- C : 定員の半数以上
- D : 定員の半数以下

内容に対する評価

- a : 充実。次につながりそう
- b : 充実。次へのつながりはない
- c : やや不十分。
- d : 内容の見直しが必要

平成 30 年度

資料1-3

事業報告書

報告日	平成30年5月1日	担当者	山田 重乃
-----	-----------	-----	-------

事業名	親子でのびのびリトミック				
事業計画カテゴリ	1. 家庭教育支援関連事業				
目標・目的	リズム、メロディーを身体全体を使い表現し、自由な感性と表現力を育てることを目的とする。音楽の力で心身の調和、発展を図りさらには母親のリフレッシュと親子のスキンシップを図る。さらに、保護者同士の交流の場活の提供。				
日時	平成30年4月13日（金） 27日（金） いずれも10時～11時30分				
場所・会場	香川公民館 集会室大				
講師・指導・協力者	久保恭子さん				
報償額	¥20,000 (詳細裏面)	支払い方法	<input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡)		
対象者	1歳～4歳までの親子	定員数	10組	実績人数	4月13日 9組18名 4月27日 9組18名 (延べ18組 36名)
材料費	-----	材料費用途	(収支報告裏面)		
概要	<p>年齢層（1～2歳児）にばらつきがなく進行しやすい形で開催。転倒防止のためと素足の感覚を養うために大人を含め全員裸足での講座となった。</p> <p>幼児の特性や集中時間など考慮し、子どもが飽きないような内容で展開。</p> <p>楽器（カスタネット）や歩行スピード、手ぶり、動物の鳴き声等で音符カードと合わせて音の長さやリズムを体感。</p> <p>また、ピアノや講師の歌声、CD等で手遊びやダンスを楽しみ、カラフルな布遊びも盛り込んだ。クールダウン時に輪になり母親から感想を発表し合い、講師がそれに回答するかたちで講座を終了した。</p> <p style="text-align: right;">(講座内容裏面詳細)</p>				
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚だけでなく、身体と視覚（音符カード・スカーフ）で音楽を表現する楽しさを経験できた。さらに子どもの自由な感性と表現力の向上に成果があった。 ・「家では兄弟がいるので、ここでスキンシップがたくさんできた」との感想があり、短時間だが母親が真剣に子どもと向かい合う時間を持つことができた。また、自宅での遊びの参考になった。 				
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器（カスタネット）を叩くことに興味を示す子が多く、色々なリズムを自ら発するという行動体験できた。これを機会にカスタネットを購入したという母親がいた。 				
事業に係る課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンセル待ちの方がいる中で、1回のみ参加や無断欠席があるのは残念。定員より1～2組多めに募集することを講師と検討したい。 ・子どもの年齢が1～2歳児と小さいので目が離せないこともあり、母親同士の交流は難しかった。講座回数を増やしていけば、交流が場の提供につながるのではないかと。 ・リトミックを続けていきたいとの希望はあったが、自分たちでサークルを立ち上げて活動していくまでには至らなかった。月1で年12回のペースで開催できれば、子どもの成長の機会が増え、家族間の交流もできる。しかし講師謝礼等の問題があり、定期開催となると講師との交渉が必要である。 ・「土足の部屋に裸足に抵抗がある」と、アンケートにあった。講師と話したが和室では狭く、ピアノがないので避けたいとのこと。ウレタンマットの使用か室内用運動靴の着用考えたい。 				

その他

【内容詳細】

4月13日（金）

公民館挨拶と講師紹介

- ①（車座）点呼兼ね楽器（カスタネット）を各人に渡す。
- ②（車座）カスタネットを使いリズムとり。
- ③（車座）音符カードで八分音符、四分音符、二分音符、全音符の音の長さを動物の鳴き声に置き換え体感。同時にカスタネットを鳴らし視覚、言葉、楽器の3点でリズムを学ぶ。（カスタネット回収）
- ④（立位）ピアノ演奏に合わせ、歩行、ジャンプ、拍手。出会いゲーム（自己紹介ゲーム）で交流。
- ⑤（車座）音楽（曲「大型バス」「あんぱんまん」）に合わせ上半身を動かす。手遊び。
- ⑥（立位）さんさん体操（CD）
- ⑦（車座）講師の歌に合わせ各組1枚スカーフを使用し表現の幅をひろげる。
- ⑧（立位）ダンス「ミッキーマウス体操」
- ⑨（車座）クールダウン

4月27日（金）

①（車座）自己紹介

②（車座）カスタネットを使いリズムをとる。

③（車座）音符カード

④（立位）ピアノ演奏に合わせ、歩行、ジャンプ、拍手。

⑤（車座）音楽（曲「大型バス」「あんぱんまん」）に合わせ上半身を動かす。手遊び。

⑥（立位）さんさん体操（CD）

⑦（車座）手遊び

⑧（車座）スカーフ遊び

⑩（立位）ダンス「ミッキーマウス体操」

⑪（車座）2回を通じての感想を母親が発表し、講師が各々に返答。

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A：定員以上の申し込み

a：充実。次につながりそう

B：定員の8割以上

b：充実。次へのつながりはない

C：定員の半数以上

c：やや不十分。

D：定員の半数以下

d：内容の見直しが必要

平成 30 年度

資料1-4

事業報告書		報告日	平成30年5月23日	担当者	鈴木 弘子
事業名	かめさんのおうち 5月				
事業計画カテゴリ	1. 家庭教育支援関連事業				
目標・目的	<p>地域における子育て環境は、必ずしも十分だと言えない状況にある。こうした状況の中、地域の家庭教育学習の拠点として公民館の充実が期待されている。</p> <p>子育ての悩みや不安を一人で抱え込まないよう身近で気軽に利用できる支援の場をつくり、さらには地域との接点の場所として公民館が活用されることを目的として開催した。</p>				
日時	平成30年5月23日(水) 10時～13時				
場所・会場	講義室・保育室				
講師・指導・協力者	香川公民館保育ボランティア 川浪恵子・勝 佳子・田辺啓子・江崎裕子				
報償額	9,200円 (2,300円×4名)	支払い方法	<input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡)		
対象者	乳幼児を持つ親(保護者)とその子ども	定員数	40名	実績人数	子ども5名 保護者6名 (合計11名)
材料費		材料費用途	(収支報告裏面)		
概要	<p>0才2名・1才3名・保護者6名 計6名(天気:曇りのち雨)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回、初めてのミニ講座「ベビーマッサージ」をかめさんのおうちで行う。ベビーマッサージの他、手遊び絵本の読み聞かせ、また子育てワンポイントアドバイスのようなことも伝えてもらった。 初めての参加が3組あり、顔見知り程度だったようだが、時間が経つにつれ会話が弾んでいた。 				
成果	<ul style="list-style-type: none"> かめさんのおうちでの企画はじめてのベビーマッサージ、参加者が少なく残念だったが、参加した親は一生懸命におこない、子どもは笑顔を見せ、その笑顔を見て母親も笑顔になるといった光景がとて微笑ましかった。ボランティアの人たちも簡単な遊び歌やワンポイントアドバイスがとてもよい勉強になったと言っていた。今日は人数が少なかったがロコミなどで少しでも広まった行くことを願う。 親しくなった3組の親子はまた、来ることを確認しあったりして、帰りも一緒に帰っていった。 				
自己評価	<p style="text-align: center;">Da</p>				
事業に係る課題・反省点	<p>利用者対象に行った豆講座がボランティアの人たちにも良い刺激になったことはとてもうれしいことだった。</p> <p>事前に豆講座の開始時間の問い合わせがあり、おおよその時間を伝えたのだが、そこだけの参加は残念なのでそれをきっかけにかめさんのおうちの利用にもつなげていきたい。</p>				

その他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

- A : 定員以上の申し込み
- B : 定員の8割以上
- C : 定員の半数以上
- D : 定員の半数以下

内容に対する評価

- a : 充実。次につながりそう
- b : 充実。次へのつながりはない
- c : やや不十分。
- d : 内容の見直しが必要

平成 30 年 度

資料1-5

事業報告書

報告日

平成30年6月2日

担当者

田端 洋

事業名	みんなの経済教室 ～人生100年時代の人生計画と資産形成～				
事業計画カテゴリ	3. 社会的要請課題事業				
目標・目的	人生100年時代といわれる今日、これまでの社会システムや人々の職業・生活への意識が大きく変化していく中、人生計画の見直しも迫られる時代となっています。また、寿命が長くなることは、生活を支える経済基盤の見直しも伴ってきます。人生100年時代の人生計画と資産寿命を考慮した資産形成をどのようにすれば良いかを考えることを目的とする。				
日時	平成30年5月27日(日) 13:00～15:00				
場所・会場	香川公民館 集会室(大)				
講師・指導・協力者	鈴木 榮三郎 氏(神奈川県ファイナンシャルプランナーズ共同組合 専務理事 CFP)				
報償額	20,000円 (詳細裏面)	支払い方法	<input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡)		
対象者	一般	定員数	25名	実績人数	7名
材料費	なし	材料費用途	— (収支報告裏面)		
概要	1. 現在我々が置かれている社会・経済の環境の解説。 2. 現在では90歳まで生きるのが普通になりつつある。(男女の各年齢層の平均余命をみると、0歳児の平均余命(平均寿命)を超えて生きようになり、男女とも90歳に迫りつつある。) 3. 寿命が長くなることで、老後の不安(①経済面、②健康・介護、③生きがい・仕事)が高まってきている。 4. 長寿化に伴って、自分のライフプランや資産寿命を意識した資産形成プランが必要になってきている。				
成果	1. 国は、社会保障制度を補完する制度として、節税効果が得られるiDeCo(確定拠出年金個人型)やNISA(少額投資非課税口座)を準備しているので、これら制度を活用し、節税効果を享受しながら、資産形成することが肝要であることを学んだ。このような制度を使うことで資産寿命を延ばすことが可能になることを学んだ。特に、iDeCoは年金準備に向いていること、NISAは中長期(5～10年)内の資金使途が決まっている場合に向いていることも学んだ。 2. 退職した場合、即公的年金を受給するのではなく、生きがいのために少し働きながら上記1.で積み立てた年金資産を取り崩すことで公的年金の支給を繰り下げ(繰り下げると年金受給時の年額が増額になる)が可能になり、結果として資産寿命を延ばすこともできることを学んだ。 3. 公的年金の補完として節税効果のあるiDeCoについては、子供に伝えたいと考えている参加者もあり、それなりの成果はあったと考える。				
自己評価	Dd				
事業に係る課題・反省点	1. 経済的側面からのライフプランや資産形成プランは必要と考えるが、必ずしもこうしたテーマへの関心は高いとは言えないようである。今後、テーマと内容を再検討したい。特に、30～40代の層が気になる経済テーマと内容を考えていきたい。 2. 申込みは8名(参加者は7名)で今一步関心を引くまでには至らなかった。				

その他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

平成 30 年

資料1-6

事業報告書

報告日	平成30年6月3日	担当者	山田 重乃
-----	-----------	-----	-------

事業名	かがわ健康ウォーク 「小田原てくてく歩き」～難攻不落の名城と古き良き街の史跡・文化財を訪ねる				
事業計画カテゴリ	6. 公民館ふれあい事業				
目標・目的	近隣の街の自然と歴史を学びながら、ウォーキングの楽しさを感じ、身近で手頃な運動として歩くことを習慣化できるようになる目的で開催。				
日時	平成30年5月31日（木）9時30分～15時				
場所・会場	小田原市内 JR小田原駅改札出口9時30分集合、箱根登山鉄道風祭駅15時解散				
講師・指導・協力者	原田 幸徳さん（東海道ウォークガイドの会） 井村 増雄さん（東海道ウォークガイドの会）				
報償額	¥17,000 （詳細裏面）	支払い方法	<input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金（資金前渡）		
対象者	一般 （9km完歩出来る方）	定員数	15名	実績人数	11名
材料費		材料費用途	（収支報告裏面）		
概要	<p>新たな小田原城としてリニューアルした小田原城址公園を中心に、周辺の史跡や庭園、文化財、寺院を巡る。古くから多くの方が往来し、様々な交流で多くの文化や伝統が息づいた歴史が感じられるウォークとなった。</p> <p>ストレッチで身体をほぐした後、ウォーキング開始。 スタート後30分ごろから小雨が降りはじめ、降ったり止んだりの天気であったが、参加者は雨具の準備をしてあり、曇天で涼しく問題ない天気であった。</p> <p>昼食を小田原城跡公園でとり1時間の自由時間を、天守閣見学（入館料500円）や園内散策、歴史見聞録館（300円）など参加者に任せたが、天守閣入館が多かったようだ。</p> <p>後半の松永記念館では、庭園と記念館見学のみで、老樺荘（別荘）室内はお茶会開催のため、入室することが出来ず、外からの見学となった。国登録有形文化財で茶室等の意匠を凝らした近代数奇屋建築が入室できず残念であった。</p> <p>解散場所は、風祭駅隣接のかまぼこ店で、参加者は試食やお土産店を楽しみに後半はウォーキングをしている様子であった。事故もなく全員完歩することができた。</p> <p>【コース】小田原駅集合→北条早雲公像→東口駅前にて準備体操→北条氏政・氏照の墓→幸田口門跡→松原神社→清水本陣→小田原宿なりわい交流館（トイレ）→西海子小路→小田原文学館（庭園）→小田原城址公園→報徳二宮神社→清閑亭→山角天神社→大久寺→古稀庵→松永記念館→小田原用水取水口→風祭駅</p>				
成果	近隣の地域文化や歴史に興味関心を喚起でき、手軽な運動としての歩くことの楽しさを体験できた。				
自己評価	Aa				
事業に係る課題・反省点	<p>・キャンセル待ちをお断りするほどの申込があったが、当日は定員に満たない実績人数となった。天気があやしかったのと、5名で申込された方が開催前日17時過ぎに取消したことが原因である。定員越えでお断りした申込者が多数いたことを考えると、安易な申込がキャンセルにつながり、それに対応する術を考えなくてはならない。</p> <p>・参加者の満足度を更にするために、慣習化された講師選びを検討する必要がある。</p> <p>【決行判断について】 ①開催前日の午前中の天気予報を参考。開催日：終日曇り予報。延期日：午前中晴れ午後より小雨。（日本気象協会・小田原市気象情報・AccuWeather天気予報（JA）・Toshin.com天気情報の4件） ②延期（6/1）の場合は、参加不可連絡事前に5名あった。 ①②の理由により予定通りの開催とし、延期連絡が必要な時を考慮午前中（12時）に判断した。</p>				

その他

【講師謝礼明細】
原田幸徳さん ¥12,000円
井村増雄さん ¥5,000円

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

平成 30 年 度

資料1-7

事業報告書

報告日	平成30年6月20日	担当者	山田 重乃
-----	------------	-----	-------

事業名	手づくり布ぞうり				
事業計画カテゴリ	6. 公民館ふれあい事業				
目標・目的	古くから伝わる布ぞうりを古布（手ぬぐいや古浴衣）を使って作り、リサイクルと日本文化継承を目的とする。 また、主催事業「布ぞうり講師養成講座」参加者の学習成果の発表の場の提供と後継者育成の地盤固めを目標とする。				
日時	平成30年6月15日（金）9時30分～12時30分				
場所・会場	香川公民館 講義室				
講師・指導・協力者	大久保 芳正さん 福真 洋子さん 大久保 清孝さん 「布ぞうり講師養成講座」受講者（卒業生）5名（裏面に記載）				
報償額	20,000円 （詳細裏面）	支払い方法	<input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金（資金前渡）		
対象者	一般	定員数	20名	実績人数	20名
材料費	300円	材料費用途	芯 鼻緒 紅白布 （収支報告裏面）		
概要	<p>参加者20名を6つのグループに分け、それぞれの班に1名の講師が付き作業開始。 布さき→芯かけ→鼻巻→編み→横鼻緒編み込み（完成した鼻緒を使用）→かかと処理→前鼻緒たての順で行い片足完成。もう片方は各自作業を進め、わからない所は各班講師が指導し、全員1足仕上げる事ができた。最後に集合写真を撮り、全員で清掃、片づけをし解散とした。 講座後、今後の事業に向け反省会を公民館と講師8名で行った。 編み機25台は寒川町教育総務課（文化財学習センター）よりお借りした。</p>				
成果	<ul style="list-style-type: none"> 各班に講師養成講座の卒業生がついたので、参加者の立場に添った細かい指導ができ満足度も高いと考える。 講師養成講座の卒業生の指導レベルアップと、自分たちの学びを地域に還元する意識をさらに促すと同時に、後継者育成の地盤を固めることができた。 班ごとの作業を進めていったので参加者同士さらに担当講師との交流ができた。 				
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 「古布の活用ができてうれしい」とアンケートにあったように、リサイクルの意識を高めることができた。 				
事業に係る課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 半日講座では完成はできたが、今後1人で編むことは難しい。完全習得するには講座時間や回数の検討が必要である。 ・ 参加者の中で、講師協力者希望の若い方がいたので、現メンバーのなかに加わっていただけるよう促し、講師層をさらに厚くしていきたい。 ・ 申込が多く、短時間で定員に達し、多くの参加希望の方をお断りした。今後、講座回数や募集人数等を検討し市民のニーズに応えていきたい。 				

Aa

その他

【講師謝礼】

大久保芳正さん 15,000円
福真 洋子さん 5,000円

【寒川町民学習センターより編み機の借用返却日時】

(借) 平成30年6月5日 (火)
(返) 平成30年6月19日 (火)

【協力講師】

菅沼 松江 さん
富田 久美子 さん
片野 順子 さん
竹田 由美子 さん
松尾 智恵子 さん

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

平成 30 年 度

資料1-8

事業報告書

報告日

平成30年6月20日

担当者

田端 洋

事業名	庭木の剪定教室 ～我が家の庭から街づくり～				
事業計画カテゴリ	6. 公民館ふれあい事業				
目標・目的	庭木のある風景は、見る者にとって心に潤いをもたらすとともに街並みに暖かさをもたらします。こうした大切な庭木に触れながら正しい剪定技術を学び、庭木剪定を楽しみながら自分の庭から潤いある街づくりを行うことを目的とする。				
日時	平成30年6月17日（日）10：00～16：00				
場所・会場	香川公民館集会室（大）及び公民館敷地内				
講師・指導・協力者	赤木 洋行氏（赤木造園事務所：造園施工管理技師、日本大学生物資源科学部造園・緑地学研究室講師）				
報償額	20,000円 （詳細裏面）	支払い方法	<input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金（資金前渡）		
対象者	庭木剪定に興味・関心のある方	定員数	15名	実績人数	13名
材料費	なし	材料費用途	— （収支報告裏面）		
概要	<p>講座は以下のような内容で行われた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実技指導の前に配布資料に基づき剪定技法（枝抜き、切詰め等）と剪定する枝（混み過ぎている枝、垂直方向の枝、平行に出ている枝、枯れた枝等）について説明があった。 2. 剪定する木はその全体を見て、どのような形にするかを決めてから始めることが大切である。今回は、玄関前の「クロガネモチの木」を対象に剪定した。 3. 花木は花が咲き終わった後1か月以内に剪定する。それ以降になると、花芽を切ることになり翌年花が咲かない。「もみじ」は枝を手のひらを広げたような形に剪定すると形が良くなる。また葉を筆取りする方法もある。椿は古葉（濃い緑の葉）を取り除き、若葉を残す方法もある。 4. 実のなる木は不要な実（小さい実）を取り除き、木を疲れさせないことが肝要である。また、肥料を与えるよりも水を十分与えることが重要である。 				
成果	<p>実地指導時や講座終了後の質疑応答等から下記のような成果が得られた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 花木は、花が咲き終わった後1か月以内に剪定し花芽を残すことが大切であることが分かった。 2. 刈込みばさみは、葉を切らずに剪定する場合には刃先を、刈込む場合には刃の真中を、太い枝を切る場合には刃の元を使用すること、また、直線に刈込む場合には刈込みばさみの刃の直線面を葉や枝に、曲線に刈込む場合には刃先の反りの内面を葉や枝に当てることを学んだ。また、ツゲは刈込みばさみで整えた後、剪定ばさみで小枝をすくとより見栄えが良くなることを学んだ。剪定みばさみで枝を切る時は葉を切らずに枝を切ることで美しい剪定ができることを学んだ。 3. 実のなる木（ミカンやキンカン等）は不要な実を取り除くこと、また肥料よりも水が大切なので水を十分与えること。 4. 今回学んだことを自宅の庭木剪定に活かしたいという参加者が多かった。 5. 定員を超える申込みがあったが、参加は13名であった。 				
自己評価	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">Aa</div>				
事業に係る課題・反省点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講座は実地指導と並行して解説も加えながら進めたが、参加者のアンケートでも概ね肯定的な意見が多かったので今後も同様の形式で実施したい。 2. 講座は1日コースで開催しているが、1日では十分学べないので2日コースを希望する方もいたが、2日に渡ると参加が難しい方もあることから今後も1日コースで企画したい。 3. 講座への関心は高く、参加希望者も多いことから、今後も継続して開催していきたい。予算措置がつけば年2回の講座にしていきたい。 4. 講座は、参加者の怪我・事故もなく、また参加者の協力もあり当初のスケジュール通り終了することができた。 				

その他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

平成 30 年度

資料1-9

事業報告書

報告日

平成30年6月29日

担当者

正岡 透

事業名	話し方講座～毎日を楽しく生き心の若さを保つ話し方～				
事業計画カテゴリ	2 家庭教育支援関連事業				
目標・目的	毎日を楽しく生きる方法「楽しい生き方の選択をする」というのが答えです。当たり前でしょうか？でもこれできていない人が多いと思います、人生とは毎日「選択」の日々です。そこで生き生き学級として「毎日を楽しく生き心の若さを保つ」をテーマにした講座とします。				
日時	平成 30年6月29日（木）10時00分～12時00分				
場所・会場	香川公民館集会室（大）				
講師・指導・協力者	松永 洋忠 湘南話し方センター所長				
報償額	¥15,000 (詳細裏面)	支払い方法	<input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡)		
対象者	一般	定員数	20名	実績人数	10名
材料費		材料費用途	(収支報告裏面)		
概要	<p>毎日を楽しく生き心の若さを保つ話し方をテーマに1、明るく良い物の考え方は心の健康の特効薬 2、心のふれあいを図るための心の扉を開く鍵とは 3、良い人間関係をつくるために！（上手な ほめ方のコツ、暗示の効用と真のほめことばとは、ピグマリオン効果とは 4、笑いは心の扉を開く （あなたにもすぐできるユーモアを起こさせるコツ 5、知的好奇心と鋭い観察力で心の「シワ」を 伸ばそうの内容で講義を行いました。</p>				
成果	<p>毎日を楽しく生き心の若さを保つには、まず人と話をする時には大きな声で挨拶から入っていく ことが大事ですと講師の実例を挙げられ話され各項目ごとに最近のニュースの中での子供の育て方 上手なほめ方のコツ等がの話や途中、生年月日による性格判断などもなされやる気を起こすことば 相手を傷つけない断り方、などが示され参加された方々には今後の中で心の若さを保つ役立ったと 思います。</p>				
自己評価	Cc				
事業に係る課題・反省点	<p>今回の話し方講座は、大変興味深い内容であり非常にためになり今後の中で実践したいという方 と期待していた割にはつまらなかったという方の両方に分かれてしまった。 子育て中の保護者を対象とした講座も必要である。</p>				

その他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

平成 30 年 度

資料1-10

事業報告書

報告日

平成30年7月4日

担当者

田端 洋

事業名	文学講座 ～漱石・龍之介の俳句と小説～				
事業計画カテゴリ	6. 公民館ふれあい事業				
目標・目的	夏目漱石は“愚陀佛”、芥川龍之介は“我鬼”という俳号を持ち、多くの俳句を作句しています。二人の俳句への思いは同じではなかったが、漱石の「草枕」、龍之介の「蜜柑」といった抒情的な作品は俳句的情感の上に成り立った作品と言えます。2人の俳句的小説や俳句的情感が表れている作品を取り上げて、俳句を通して文豪の作品に親しむことを目的とします。				
日時	平成30年6月30日(土) 13:00～15:00				
場所・会場	香川公民館 集会室(大)				
講師・指導・協力者	中田 雅敏 氏(八洲学園大学教授)				
報償額	20,000円 (詳細裏面)	支払い方法	<input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡)		
対象者	一般	定員数	25名	実績人数	24名
材料費	なし	材料費用途	— (収支報告裏面)		
概要	<p>講演の概要：</p> <ol style="list-style-type: none"> 夏目漱石は、親友正岡子規の指導もあり多くの俳句を作句しており、句集を出すまでになっている。また子規の勧めもあって、写生文でエッセイを書くことでより磨かれた感性が俳句にも生かされている。漱石の俳句で磨かれた感性、語感や区切りの良い文章は「草枕」等に見られる。 芥川龍之介は、幼少時から漢文・古典に親しみ、その知識や感性から俳句を作句していた。その俳句には芭蕉や蕪村の句を上手く取り入れ子供とは思えない句を詠んでいた。龍之介の俳句で磨かれた知性や感性から書かれた文章は「羅生門」にも見られる。また「蜜柑」は抒情的作品で感性の豊かさを感じさせる短編小説である。 口語文は明治以後成立し、漱石が「吾輩は猫である」で口語文を確立した。その後、口語文は進展してきているが、文章表現には終わりがなく今なお進展し続けている。 				
成果	<ol style="list-style-type: none"> 漱石・龍之介は生来の知性に加え、俳句で培われた感性や語感・区切りの良さを作品に表現していることを知ってもらえた。 写生文で時に“山”(自分の感情や感性を織り込む箇所)を入れて文章を書くと、文章を進め易くなることを知ってもらえた。 漱石・龍之介の作品を改めて読み直してみたいという人も見られ、再読の機会を提供する講座になったと思われる。 				
自己評価	Aa				
事業に係る課題・反省点	<ol style="list-style-type: none"> 文学講座への関心は高いので、本講座は継続していきたい。ただ、講座のテーマを文学論にするか、作品論にするか、作家論にするかも含め関心と呼ぶテーマ・内容がポイントとなるため、その点が課題と考える。 文学講座は1回講座として開催しているが、2～3回の連続講座を希望する人もあり、講師への依頼や手配等を検討したい。 今回マイクを使用したことで、講師の話がよく聞き取れた。今後も同様の対応をしたい。 				

その他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

平成 30 年度

資料1-11

事業報告書

報告日

平成30年6月29日

担当者

鈴木 弘子

事業名	かめさんのおうち 6月				
事業計画カテゴリ	1. 家庭教育支援関連事業				
目標・目的	<p>地域における子育て環境は、必ずしも十分だと言えない状況にある。こうした状況の中、地域の家庭教育学習の拠点として公民館の充実が期待されている。</p> <p>子育ての悩みや不安を一人で抱え込まないよう身近で気軽に利用できる支援の場をつくり、さらには地域との接点の場所として公民館が活用されることを目的として開催した。</p>				
日時	平成30年6月27日(水) 10時～13時				
場所・会場	講義室・保育室				
講師・指導・協力者	香川公民館保育ボランティア 勝 佳子・江崎裕子・手代木・福原純子				
報償額	9,200円 (2,300円×4名)	支払い方法	<input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡)		
対象者	乳幼児を持つ親(保護者)とその子ども	定員数	40名	実績人数	子ども9名 保護者8名 (合計17名)
材料費		材料費用途	(収支報告裏面)		
概要	<p>0才3名・1才3名・2才2名・3才1名・保護者8名 計17名(天気:晴れ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風が強く、10時を過ぎても参加者がなかったので誰も来ないかと心配したが10時30分頃になるとほぼ同時に来始めなので受け付けが混雑するほどだった。 ・今回は応急手当のミニ講座を行う。担当の保育士が簡単な体操やパネルシアターも行う。応急手当のテーマは誤飲時の対応を行う。参加者同士や人形を使って実際に体験してみる。 				
成果	かめさんのおうちでのミニ講座、先月に続き今月は応急手当をテーマに行う。講座があることを知らなかった参加者がほとんどだったので、思いがけない催しで喜ばれた。				
自己評価	丁寧な説明でわかりやすかったが、予定の時間よりのびてしまい、質問の時間が取れなかったことが残念だった。				
	Da				
事業に係る課題・反省点	チラシや口頭で応急手当を行うことを伝えていたのだが、やはり周知は難しいことだと思った。しかし、参加者はとても有意義だったとの感想があった。今年度このような講座を始めたことも、「かめさんおうち」の利用を増やすことも理由の一つなので今後、口コミ等で広がり成り行きを見ていこうと思う。				

その他

豆講座協力者
浜見平保育園保育士 熊坂 光さん

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

- A : 定員以上の申し込み
- B : 定員の8割以上
- C : 定員の半数以上
- D : 定員の半数以下

内容に対する評価

- a : 充実。次につながりそう
- b : 充実。次へのつながりはない
- c : やや不十分。
- d : 内容の見直しが必要

平成 30 年 度

資料1-12

事業報告書

報告日	平成30年7月10日	担当者	山田 重乃
-----	------------	-----	-------

事業名	手づくり布ぞうり(講師養成講座 ～技術向上フォローアップ～)				
事業計画カテゴリ	6. 公民館ふれあい事業				
目標・目的	昔ながらのぞうりを古浴衣で作りで、日本文化継承と古布のリサイクルを学ぶ。と、同時に26年度「布ぞうり講師養成講座」参加者のテップアップと、自分たちの学びを地域の貢献する意識を高める目的で開催。				
日時	①平成30年7月8日(日)9時～12時30分				
場所・会場	香川公民館 集会室大				
講師養成者兼講師	片野 順子さん 竹田 由美子さん 富田 久美子さん 松尾 智恵子さん 菅沼 松江さん 吉田 紀子さん				
報償額	¥21,000 (詳細裏面)	支払い方法	<input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡)		
対象者	中学生以上	定員数	12名	実績人数	12名
材料費	500円	材料費用途	布 鼻緒 芯 (収支報告裏面)		
概要	<p>完成までの行程を講座始めに詳しく説明した後、班ごとに作業を進めていった。今回、進捗状況は全員揃えず、各班の講師にお任せした。 鼻緒づくり→芯かけ→鼻巻→編み→横鼻緒付け→かかと処理→前鼻緒たての順に班ごとに作業を進めてき、全員1足完成することができた。最後に参加者全員に感想を発表していただいたき、解散とした。</p>				
成果	<ul style="list-style-type: none"> 講師養成講座から4年越しで、自分たちだけで講座指導を行う2回目。日本古来の伝統を次世代への引き継ぎの担い手の育成としての成果がり、また自身の学びを地域につなげていく意識づけができた。 また、講座参加者は昔ながらのぞうり作りを通し、日本の文化と古布リサイクルを学ぶことができた。 				
自己評価	Aa				
事業に係る課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> 前回との差別化のため、対象を学生の参加を意識し中学生以上とし日曜開催としたが、若い世代の申込はなかった。近隣の学校にチラシを持ちもむなどの工夫が必要である。 1足完成できたが、今後ひとりで編み上げるまではマスターできなかった。「1足完成できました。でも先生がいなくてもう作れません」では、講座としての完成度が低いので、講座回数、内容を検討する必要がある。この旨、講師に投げかけたところ、「完全マスター 2日間コース」でリベンジしたいと、意見がでたので年度内に館と相談の上、実行に移したい(但し、講師謝礼なし)。 前回、同一進捗では時間がかかり効率が悪いと講師から意見が出たため、講座冒頭で完成までの工程を詳しく説明し、その後、個別に進めていく指導方法を新しい試みとして行った。しかし、講師の力量に差があり、出来上がり参加者の理解度に差が出てしまっている。パワーポイントを使用し一斉指導ができれば、先の問題は軽減できると考える。また、パワーポイント使用により、募集人数を増やせることが期待でき、さらにマンツーマンの指導の解消になる。この先、この講座を継続していくなら、指導方法をブラッシュアップする必要がある。 講座参加者の中から、講師協力者につなげていくことが、地域交流や世代間交流、講座向上に効果があるので、新しい人材を増やし活性化することも必要である。 				

その他

【講師謝礼内訳】

片野 順子 さん 3,500円
竹田 由美子さん 3,500円
富田 久美子さん 3,500円
松尾 智恵子さん 3,500円
菅沼 松江 さん 3,500円
吉田 紀子 さん 3,500円
(合計21,000円)

【編み機25台】

寒川町役場生涯学習センターから借用
平成30年7月3日（火）～7月10日（火）

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

A：定員以上の申し込み

B：定員の8割以上

C：定員の半数以上

D：定員の半数以下

内容に対する評価

a：充実。次につながりそう

b：充実。次へのつながりはない

c：やや不十分。

d：内容の見直しが必要